

## 第4回 愛南町御荘地区沿岸津波対策検討委員会

### 住民意向を踏まえた整備方針（案）

#### 構 成

- |   |                            |   |
|---|----------------------------|---|
| 1 | 住民意向を踏まえた整備方針（案）           | 1 |
| 2 | 整備方針（案）                    | 2 |
|   | Ⅰ. 津波対策の前提条件               |   |
|   | Ⅱ. 検討のためのベースプラン            |   |
|   | Ⅲ. 実現に向けての課題               |   |
|   | Ⅳ. 津波対策の整備手法               |   |
|   | Ⅴ. 早期に目指すべき防御レベル（第1期整備の目標） |   |
|   | Ⅵ. 整備の優先度                  |   |
|   | Ⅶ. 配慮事項                    |   |

# 1 住民意向を踏まえた整備方針（案）

- ・ 第3回検討委員会において提示した整備方針（案）に対し、住民意向調査等で確認した住民意向を踏まえ、整備方針（案）の取りまとめを行う。
- ・ まず、整備方針（案）の前提となる「堤防等の整備」については、住民意向調査の結果から重要な津波対策として認識されていると考えられる。

## 住民意向調査 結果から

- ① 「避難対策（ソフト対策）」とともに「堤防や水門等の整備」も重要な対策として認識されている。
- ② いずれの年代においても「堤防や水門等の整備」は重要な対策として認識されており、特に若い世代でその傾向がみられる。
- ③ 必要だと思う堤防の高さとしては「5m程度の津波が乗り越えない高さ」での整備を求める意見が多く、「津波被害の軽減効果が得られる高さ」と合わせると7割程度ある。

◆津波対策として堤防整備を示した、**第3回検討委員会の整備方針(案)を基本**として、**住民の幅広い意見・意向を取り入れながら、整備方針(案)の取りまとめ**を行う。

## 2 整備方針（案）

### I. 津波対策の前提条件

変更なし

#### ◇愛南町御荘地区で想定されている津波

- ・ L 1 津波（数十年～百数十年の頻度で発生する津波）が発生すると、津波高さ約 5 m の津波が約 44 分後に御荘地区沿岸へ到達するとともに、地震に伴う地殻変動により広域的に最大約 1.4 m の地盤沈下が想定されています。
- ・ L 1 津波を完全に防護するための堤防整備を行う場合、1.4 m の地盤低下を考慮すると、必要天端高は、標高(T.P)+7.2 m となり、現況堤防を 4 ～ 5 m 程度嵩上げする必要があります。

### II. 検討のためのベースプラン

変更なし

#### ◇海岸堤防嵩上げ案

- ・ 海岸堤防を嵩上げすることにより、津波による浸水を防御する案で、津波遡上対策として、防潮水門の整備や河川堤防嵩上げも必要となります。

湾口防波堤案は、動作の不確実性や、湾内に水が滞留し、湾内の自然環境や漁業に大きな影響を生じさせる恐れがあるなど、技術面、安全面、環境面について大きな課題があり、実現性が極めて低いため、検討の対象から除外します。

## 2 整備方針（案）

### Ⅲ. 実現に向けての課題

#### ◇堤体の巨大化とそれに伴う影響 変更なし

- ・ L 1 津波を完全防護するには4～5 m程度の堤防嵩上げが必要となりますが、堤防の巨大化に伴い、日常生活や景観・自然環境への影響や、整備期間の長期化が懸念されます。

#### ◇切迫する次の南海トラフ地震

- ・ 昭和南海地震から約70年が経過し、今後30年間以内にマグニチュード8～9クラスの南海トラフ地震が70～80%の確率で発生すると予測されており、早期に効果的な津波対策が必要となっています。

地震調査  
委員会

「長期評価による地震発生確率値の更新について」（H30. 2. 9 地震調査委員会）の公表。

◆ 長期評価による地震発生確率値が約70%から70～80%に更新されたため、**整備方針(案)に反映**する。

## 2 整備方針（案）

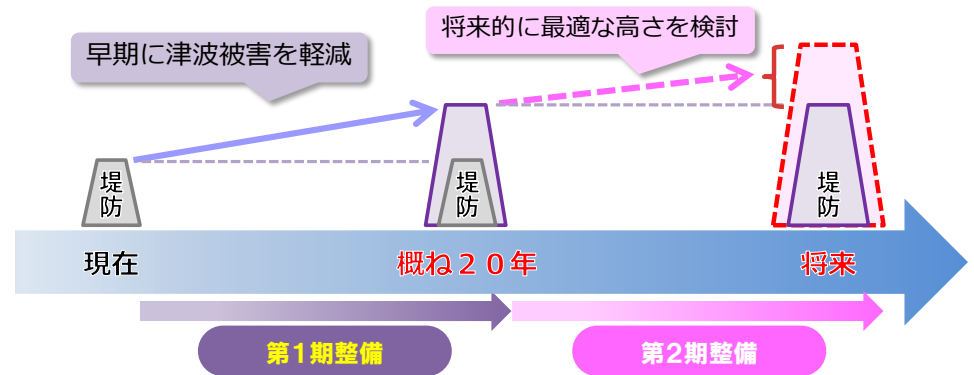
### IV. 津波対策の整備手法

変更なし

津波被害の軽減のため、町が進める避難対策に加え、地域の実情に応じた段階的な堤防整備を行います。

#### ◇第1期整備（概ね20年間）

- ・次の南海トラフ地震に備え、早期に目指すべき防御レベルを設定し、それに必要な整備を先行して行います。



#### 住民意向調査 結果から

- ①「堤防が必要」という回答者のうち、「第1期整備の高さ」を求める意向は約6割となっており、人命を守るために早期の堤防整備が求められている。
- ②より減災効果の高い堤防整備を求める意向も強く、将来的に必要な高さについては、整備にかかる費用や期間、防災効果等のバランスを考慮した最適な高さを検討していく必要がある。
- ③中学生・高校生は、「第1期整備」を求める意向は全体の約7割となっている。

- ◆早期の堤防整備が求められており、整備方針(案)に示す「第1期整備」を先行して実施する手法と一致している。
- ◆より高い堤防を求める意向も強く、「第2期整備」を検討する必要があることも確認できた。

## 2 整備方針（案）

### IV. 津波対策の整備手法（続き）

#### ◇第2期整備（第1期整備完了後）

- ・第1期整備と並行して、地域の日常生活や沿岸環境等への影響及び避難対策との連携を考慮した**将来的なまちづくりのあり方を含めて**、最適な整備水準（堤防高）の検討を進め、地域との合意形成を図っていきます。

#### 住民意向調査 結果から

- ③必要だと思う堤防の高さとしては「5m程度の津波が乗り越えない高さ」での整備を求める意見が多く、「津波被害の軽減効果が得られる高さ」と合わせると7割程度ある。
- ⑫より減災効果の高い堤防整備を求める意向も強く、将来的に必要な高さについては、整備にかかる費用や期間、防災効果等のバランスを考慮した最適な高さを検討していく必要がある。

#### 住民説明会 意見から

- ・津波避難タワーの整備や高台移転の検討など、多様な津波対策を進めていくべきとの意見があり、今後のまちづくりのあり方も含めた検討が求められている。

◆より高い堤防(L1津波対応を含め)を求める意向も強く、「**第2期整備**」が**求められている**なかで、第2期整備は、長期的な視点を持って検討すべき事項であり、**将来的なまちづくりのあり方**を含めた検討を行うことを、**整備方針(案)**に**反映**する。

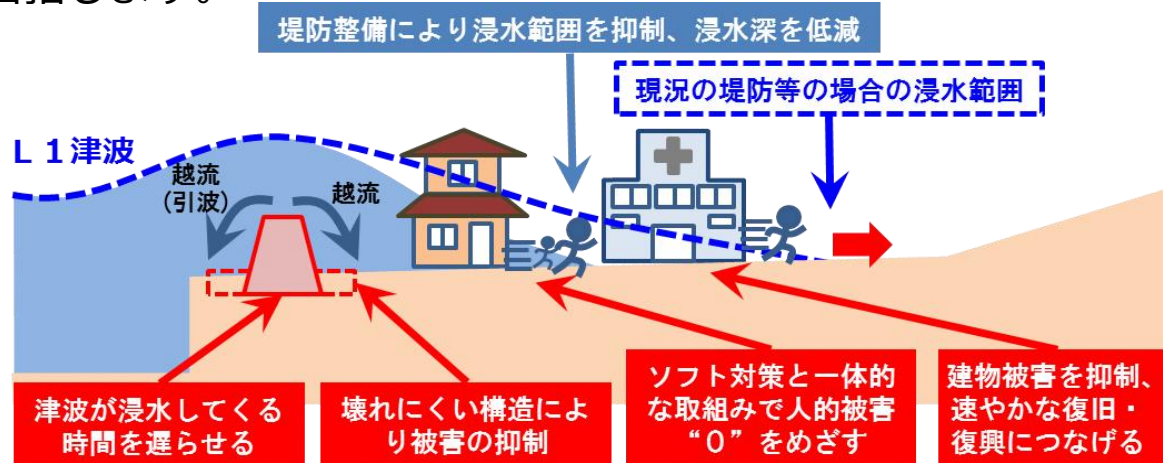
## 2 整備方針（案）

### V. 早期に目指すべき防御レベル（第1期整備の目標）

変更なし

◇ソフト対策と一体となり津波による人的被害を“0”にする

- ・ L1津波の浸水開始を遅らせることにより避難時間を確保し、津波による人的被害“0”の実現を目指します。



#### 住民意向調査結果から

- ④ 「L1津波が乗り越えない高さ」を選んだ住民はより安全性が高くなることを求め、「津波被害を軽減する高さ」を選んだ住民は環境の影響への配慮も求めている。
- ⑤ 人命を守ることを優先した整備を求める意見がある一方、環境や景観への影響を懸念する意見もある。
- ⑨ 住民の防災意識の高揚や避難路の整備、避難体制の強化といったソフト対策が求められている。

◆堤防整備によって、「人命を守る」ことが重要視されるとともに、多様なソフト対策が求められていることから、「ソフト対策と一体となり津波による人的被害“0”にする」という整備方針(案)に示す目標と一致している。

## 2 整備方針（案）

### V. 早期に目指すべき防御レベル（第1期整備の目標）（続き）

変更なし

#### ◇津波が越流（堤防等を越える）した場合においても被害の抑制を図る（粘り強い構造）

- ・ L1津波が堤防等を越流することが想定されますが、その際にも壊れにくい構造（粘り強い構造）を採用することで、津波被害の抑制を図ります。

#### ◇被災後の速やかな復旧・復興につなげる

- ・ L1津波による浸水があっても、防災上の重要施設や被災後の復旧・復興に必要となる産業基盤施設が喪失しないよう、浸水範囲の抑制や浸水深の低減を図ります。
- ・ 南海トラフ地震の発生時に想定される広域的な地盤沈下が発生しても、被災後において日常的な浸水被害を防ぐことができる堤防高さを事前に確保し、速やかな復旧・復興につながる整備を進めます。

### VI. 整備の優先度

変更なし

#### ◇優先整備工区の設定

- ・ 人的被害の最小化や復旧・復興の迅速化等の観点から、以下の検討項目により優先整備工区を検討します。

〈検討項目〉 人的被害発生リスク、緊急輸送道路（橋梁を含む）、重要施設（公共施設等）など



## 2 整備方針（案）

### VII. 配慮事項

#### ◇環境・景観・利用等への配慮

- ・沿岸部には、過去の調査で植生や底生生物等の貴重種が確認されており、**堤防整備によって生じる周辺への影響を調査・分析し**、施設計画の策定にあたっては自然環境の保全に配慮します。
- ・景観や生活環境、漁業活動等への影響を可能な限り抑制し、**地域住民や関係者への適切な情報提供に努めます。**

#### 住民意向調査 結果から

- ④「L1津波が乗り越えない高さ」を選んだ住民はより安全性が高くなることを求め、「津波被害を軽減する高さ」を選んだ住民は環境の影響への配慮も求めている。
- ⑤人命を守ることを優先した整備を求める意見がある一方、環境や景観への影響を懸念する意見もある。
- ⑦「堤防は必要ない」の意見も全体の1割程度あり、「工事にかかる費用」や「堤防の整備効果」、「環境への影響」を懸念する意見が多くみられる。
- ⑩環境や景観、水産業への影響等が懸念されており、堤防が整備されることによって生じる影響を心配する意見がみられる。

#### 住民説明会 意見から

- ・水産業や干潟に生息する生物への影響、また工事期間中の周辺環境への影響などを懸念する意見がみられた。

◆「環境」や「景観」、「水産業」等への影響を懸念する意見が多くあることから、**堤防整備によって生じる影響を、調査・分析し、適切に情報提供していくことを、整備方針(案)に反映する。**

なお、「VII. 配慮事項」において、「自然環境の保全に配慮します。」と記述していたが、自然環境の保全に配慮し、周辺環境への影響を調査することをより明確にするため、追記を行ったものである。

## 2 整備方針（案）

### VII. 配慮事項（続き）

#### ◇環境・景観・利用等への配慮（続き）

- ・堤防整備にあたっては、コストを抑えた工法や効率的な施設計画の検討に努めます。
- ・河川の津波遡上対策についても、関係機関と協議しながら進めます。

#### 住民意向調査 結果から

⑦「堤防は必要ない」の意見も全体の1割程度あり、「工事にかかる費用」や「堤防の整備効果」、「環境への影響」を懸念する意見が多くみられる。

#### 住民説明会 意見から

- ・堤防整備に要する費用を懸念する意見があり、住民の関心が高いと思われる。
- ・海岸だけではなく河川からの浸水を懸念する意見がみられた。

- ◆堤防整備に要する費用を懸念する意見があり、**整備コストの低減に努めることを整備方針(案)に反映**する。
- ◆河川からの浸水を懸念する意見もあることから、**河川の津波遡上対策についても関係機関と協議しながら進めることを整備方針(案)に反映**する。  
なお、「Ⅱ. 検討のためのベースプラン」において、「津波遡上対策として、防潮水門の整備や河川堤防嵩上げも必要となります。」と記述していたが、河川の津波遡上対策の必要性をより明確にするため、追記を行ったものである。

## 2 整備方針（案）

### VII. 配慮事項（続き）

#### ◇避難への意識

- ・整備が開始されても完了するまでに長い年月がかかり、また、完了しても想定を越える津波が発生した場合には、堤防等を津波が越えるため、「自らの命を守るためにも避難は必ず必要」という意識啓発に努めます。

#### ◇総合的な対策の推進

- ・堤防整備とあわせて、愛媛県と愛南町が連携を図りながら、避難路の整備や情報伝達体制の強化などソフト対策を拡充し、総合的な津波対策に努めます。

#### 住民意向調査 結果から

- ①「避難対策（ソフト対策）」とともに「堤防や水門等の整備」も重要な対策として認識されている。
- ⑥堤防の整備とあわせて、避難を後押しするためのソフト対策を求める意見がある。
- ⑨住民の防災意識の高揚や避難路の整備、避難体制の強化といったソフト対策が求められている。

#### 住民説明会 意見から

- ・避難場所の確保などソフト対策に関しても様々な意見が出されており、住民の関心が高いと思われる。

◆避難路の整備などソフト対策の拡充が求められており、**堤防整備とあわせて総合的な津波対策に努めることを整備方針(案)に反映する。**